

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	グループホーム ツクイふれあいの家		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>4月～11月の期間は外出行事を企画しており9名全員で必ず外出する事を心がけ、実際に実行している。室内とは勝手が違い外では9名中一名しか自立歩行できない中、4名の職員同行で遠距離の小樽まで行ってあります。「外出・外食を出来る限り楽しんで頂きたい」という職員全員の気持ちがとても強い事です。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100937&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ツクイふれあいの家」は市電駅から徒歩5分ほどの交通の便にも恵まれた閑静な住宅街に位置している。所長をはじめ、全職員で常に現状を当たり前と考えることなく、新鮮な目線でケアを見つめる姿勢を大切に、より良いグループホーム作りに前向きに取り組み、多くの成果を上げているグループホームである。今年度は法人内のサービス品質向上イベントのメニュー部門グランプリを目指して、買い物や畑で野菜を収穫するなど食材の調達から調理に至るまで利用者と共に目標に向かって一緒に取り組んでいる。法人の体制を活かし、デイサービスと協力して合同行事を行ったり、車を借りて外出を積極的に行っている。家族の意向や安全面から昨年まで行われていた車椅子時の固定ベルトやベッド柵などの身体拘束にあたる行為に関して、身体拘束委員会や家族と話し合いを重ねて、短期間で今年度廃止に取り組むなど利用者の立場に立ったケアが常に行われている。日々の生活の中でも家事分担など利用者の役割が多く、各利用者は生き生きと張り合いのある生活を送っている。</p>
--

サービスの成果に関する項目(太陽3F アウトカム項目)		項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、更に各ユニット毎に理念をかけた談話室に掲示している。サービス提供場面では個別ケアの統一を図り常に理念を確認しながら実践に向け取り組んでいる。	家庭や地域との繋がりを大切に、「ともにたのしくすこやかに」その人らしい生活を送れるようお手伝いをするという、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し掲示している。理念に沿ったサービスが提供されているが、全職員が理念を日々意識するまでには至っていない。	全職員で理念を再認識して内容を共有し、更に実践に繋がれるように期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に加入しており、祭り、運動会、老人クラブ等の地域行事に積極的に参加している。事業所の祭りや行事イベントには地域住民が気楽に立ち寄りなど交流する機会を作っている。	町内会行事に参加すると共に、事業所のお祭りで地域住民に手伝ってもらったり、敬老会で老人クラブのボランティアに踊りを披露してもらうなど活発に交流が行われている。地域の喫茶店に出かけることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベントには積極的に参加し、認知症の人の理解や支援方法を伝え、地域の人々が家族、親戚等で困りの相談にのっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族代表、町内会長、副会長、財務部長、老人クラブ副会長、近隣喫茶店店主、地域包括支援センター職員等が出席し、2ヶ月に一度開催している。行事予定報告、研修計画、地域との交流、防火計画等を話し合いサービスの質の向上と事業所の円滑な運営に効果を上げている。	町内会役員や地域包括支援センター職員、家族、利用者などが参加して2ヶ月毎に開催し、活動報告や職員の入退職、外部評価結果報告などを行っている。町内会長からは東日本大震災の話があり、改めて災害時の取り組みについて考える機会にもなっている。年間予定を立て、毎回全家族に開催案内を送付している。	議題を工夫することで報告中心の内容から有意義な討議が行われ、会議が日々のケアや運営に更に役立てられるように期待したい。また、議事録を全家族に送付するように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市管理委員会、中央区管理者連絡会に参加し、積極的に交流している。社会福祉協議会、地域包括支援センター職員と連絡を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者の交代についてなどわからないことは市役所を訪問したり、研修会に参加した時に積極的に担当者に声をかけて相談を行っている。生活保護課へは利用者に関することや書類の記入方法など、電話や訪問を通して相談する機会が多い。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束委員会を設置し、研修を頻繁に行い、周知徹底している。玄関の施錠はやむおえなく行っている。	法人マニュアルを整備し、毎月身体拘束委員会を開催している。外部研修後、内部で報告研修会を行い全職員で理解を深めている。家族の意向や危険防止の面から行われていた身体拘束について、家族、職員間で話し合いを重ね、今年度は身体拘束を廃止するなどの実績を上げている。玄関は夜間のみ施錠し、エレベーター前に鈴を設置して安全面に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を頻繁に行い周知徹底している。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明しており、質問には丁寧に答えし、理解、納得をして頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情BOXを設置しており、契約時には第三機関へ苦情申し立てが出来ることを説明し、町内会議には利用者様と一緒に出席している。	家族の来訪時に積極的に話しかけ、利用者の様子を報告して家族が意見を言いやすいように配慮している。家族からは、本社や管理者、職員に率直な意見が寄せられることもあり、内容は連絡ノートに記録したり口頭で報告して職員間で共有できるように工夫している。	家族の意見や要望を日々のケアに更に活かせるように、アンケートなどの実施や家族からの要望を個別に記録するなどの工夫を期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二度会議を行い運営状況、本社からの伝達事項、意見交換を行っている。	所長は年1回個別面談を行ったり日々声かけを行い、各職員が些細な意見や提案も言いやすいように配慮している。気になることがあればその都度個別面談も行っている。各職員は意見や提案が出しやすい環境で、日々の運営やケアに十分反映されていると感じている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を毎年上げて向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて少しずつスタッフと共に取り組み、参加出来る研修には積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会やスタッフ研修に積極的に参加し、グループホーム同士の訪問交流を図っている。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には必ずご本人との面談を行い話しを何度もお聞きし、分かり合えるまで何度も訪問する事もある。質問にはすぐにお答えし、不安な事がないようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族のみの面談も行い、困っている事などの話をお聞きし、納得されてから不安なく入居出来るようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初回面談時に本人と家族が一番必要な支援を見極め、市町村独自のサービスの利用等も取り入れている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理や掃除をご本人様にお聞きしながら出来る事、出来そうな事を一緒に行っている。味見等も利用者様にさせていただいている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にはホームでの日常生活をお伝えし、本人の昔の事や出来ることをお聞きしホームで活かしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔の友人への電話、手紙、FAXでのやり取りが途切れないよう支援している。</p>	<p>馴染みの人が来訪した時は、飲み物などを提供して居室でゆっくり楽しめるように配慮している。電話連絡がある知人には、利用者からも連絡が取れるように職員が相手の電話番号を尋ねるなど、交流が継続できるように積極的に支援している。買い物帰りに自宅を見に行ったり、馴染みのお店などにも一緒に出かけている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>談話室で皆で過ごされる時間が多い。時には自室に招き入れお茶しながら仲良く過ごされている。</p>		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で家族対応になった時でも必要に応じ病院へお見舞いに行ったり、退去後も家族の相談にのっている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人にお聞きしたり、生活の中での様子観察、一人ひとりの思いをスタッフ全員で検討している。	職員は積極的に各利用者に話しかけ、表情やたまに発する言葉などを聞き逃さず捉えている。夜勤時などに交わした会話から本人の思いや意向を把握して報告し、職員間で情報を共有できるように工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やひもときシートを用いて今までの暮らしの把握を行っている。日常会話、ご家族の話も参考にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から、その人を知る努力をスタッフ全員が行い申し送り等で把握するように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度のケアカンファレンスを通し、本人、家族との意向を大切にしながらスタッフ全員で意見を出し合いケアプランを作成している。	新規利用者の介護計画は1ヶ月で見直しを行っている。利用開始後は3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人の意向などを活かしながら計画を作成して家族に説明を行っているが、家族の意向がすぐに新しい介護計画に十分反映されるまでには至っていない。現在書式の検討を行い、より充実した介護計画ができるように取り組んでいる。	書式の検討を含め、利用者や家族の思いや意向が現状の介護計画に更に反映されるように期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア日誌や経過記録、温度版を作成して申し送りを通して情報の共有や実践に取り組みやケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2Fにデイサービスがあり、行事がある時には、一緒に参加している。デイサービスの場所を借りて軽運動等も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練や町内の花植え等に利用者と共に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医に診てもらい、ご家族同行の受診を行っている。往診も定期的に行っており、緊急時やご家族が同行出来ない場合は職員が同行している。	家族送迎により、かかりつけ医を継続している利用者もいるが、体調変化がある時は職員も同行して情報交換をし、適切な医療が受けられるように支援している。定期的に医師の往診と看護師の訪問が行われている。結果は「受診・往診報告書」に個別に記載している。	

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専任の看護職員が週1回勤務し、利用者様の健康状態を把握し、職員より相談を受け解決出来るようにしている。必要があれば受診して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時には、介護添書、看護添書を提出し情報を共有し出来るだけグループホームでの暮らしに近づけるように連絡を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在の状況について家族と話し合いをしている。重度化や終末期についても方針を共有化している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に説明している。家族や本人の意向により看取りも可能であり、体調変化に応じて看取りに関する書類を作成し、現在まで数人の看取りを行っている。事業所としての看取り指針の書面化を検討中である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの看護職員の指示の元マニュアルの確認を行い、判らない事は個別に指示をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練でシュミレーションを行い、地域の方々とは連絡網を設け、対策をとっている。	年間2回、デイスサービスと合同で日中想定火災避難訓練を行っている。内1回は消防署の協力の下実施している。現在計画的に災害備蓄品の整備を行っているが、職員の救急救命訓練の受講と災害時の地域住民の役割分担は今後の課題となっている。	夜間を想定した避難訓練と職員の救急救命訓練の受講が計画的に行われるように期待したい。また、火災以外の災害時の対応や地域住民の役割分担について更に話し合いが進められるように期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の時や一人ひとりの声掛け等プライバシー確保を充分に行い個人情報は一貫づつファイルに閉じて書庫に鍵をかけて保管している。	法人の新人研修の際に接遇マナーやプライバシー保護について学んでいる。急いだ雰囲気にならないように言葉かけに配慮したり、禁止用語を職員間で確認している。利用者の呼び名は名字または名前に「さん」を付けて敬意のあるトーンになるように注意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりわかるように合わせた説明、働きかけを行い自己決定を大切に取り組み、促しを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出が好きな方は職員と買い物や散歩に行ったり、屋内で活動するのが好きな方には自由に過ごして頂き皆さんに選択して頂くような声掛けをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時は本人が洋服を選ぶ時、お手伝いをしたり、訪問美容では本人の好みにカットしてもらっている。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付け、食器洗いを利用者様と一緒にいき、昼食は同席して味の評価をお聞きしている。	職員で構成する給食委員会で利用者の意向を反映した献立を1週間単位で考案している。2日に1回利用者と一緒に買い出しに出かけ、食材の魚をさばくなどできる範囲内で調理にも参加してもらっている。バーベキューや出張出前寿司、レストランでの外食も取り入れて楽しみになるよう工夫しているが、職員と利用者の供食は課題となっている。	認知症の重度化によっては職員の食べ方がモダンになる場合もあるので、利用者と一緒に食卓を囲みながら同じ食事を摂れるような支援について再度検討する機会が持たれるように期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr指示がある場合を除き、一人ひとりの食べられる量を配膳し、摂取量を温度版にて記録している好みによっておかけの対応もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の利用者様には、声掛けを見守りを行い、自立以外の利用者様には介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し、声掛けや誘導を行って、トイレでの排泄の支援を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者の生活リズムに応じた声掛けや誘導を行っている。病状の観察で尿量の計測が必要な利用者もあり、随時、排泄のアセスメントを丁寧に行っている。夜間の排泄の声かけはしているが、無理強いをせず、本人の負担感に配慮を持って支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、多めの水分摂取、食物繊維の摂取を支援し軽い運動や体操を行い、便秘予防をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯船に入浴剤を入れて香りを楽しんで頂き、最低週2回は入浴して頂いている。職員が一人だけで見守りが不十分な時以外は入浴して頂いている。	日曜日は予備日として空けており、その他は毎日入浴できる態勢を取っている。重度化の場合は職員が2名介助で湯船にゆったりと浸かれるように対応している。利用者に入浴順を決めてもらったり、異性介助を好まない場合には、随時、意向の入浴が実施できるように柔軟に支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ自室や談話室で五目並べをしたりレクや体操に参加して頂き夜間は充分睡眠出来るようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、当ホームのナースと職員とで、しっかり連携を取り、処方箋と薬の説明書確認をスタッフ全員が行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までされてきた事をホームでも継続できるよう支援している。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は外出できるようその人に合わせた支援を行っている。本人が望む場所にはスタッフが可能な限りお連れしている。また墓参り等は家族の方をお願いしている。</p>	<p>利用者全員が外気に触れ、戸外を楽しめるように外出を支援している。車椅子を使用している場合も積極的に散歩に出かけたり遠出をしている。神宮参拝や紅葉観賞、フェリーターミナルの見学などの行事的な外出も多い。趣味の品を買うための個別の同行支援も行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人にお金の管理はさせていないが買い物に行った時は財布を持って頂き、支払いをして頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は事務所にあるので自由に掛けて頂いており、手紙やFAX等はスタッフがお手伝いして書く事もある。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間、居間、廊下等には壁に季節を感じられる装飾を施し音光においては、各入居者に合わせたテレビの音に配慮し日差し等もブラインドで調整出来ている。</p>	<p>外玄関はデイサービスとの共用であり、ユニットが3・4階にあるため出入り際にはエレベーターを利用している。建物が寮の改築型で無機質になりやすい面を職員手作りの楽しい装飾や植物の配置、亀の飼育などでソフト面の充実を図っている。ユニットに応じて居間にカーペットを敷き、利用者が床に座位できるように配慮している。非常階段が職員の喫煙場所になっており、臭いの対応策の検討を重ねている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとり個室があり、共有空間には皆で座れるソファがあり、用途に合わせて誰でも自由に過ごせるようになっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使用していた物を持ち込み使用している。</p>	<p>居室にはクローゼットが備え付けられ、暖房の温度設定が壁に設置されている。居室ドアは設備上重いドアであるため、利用者の身体機能や家族、本人の希望によって取り外し、カーテン類で代用を行っている。姿見やリクライニングチェアなどお気に入りの調度品が持ち込まれており、安心して過ごせるよう設えを支援している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には表札をトイレには大きな字で表札、毎日の掃除時に混乱を招く物がないかをチェックしている。危険箇所には手すりや滑り止め等に対応し、環境作りに取り組んでいる。廊下での歩行運動を行い身体機能低下を防いでいる。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	グループホーム ツクイふれあいの家		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>外出行事では、今まで行っていなかったご家族を含めた外出への取り組みを行ってまいりました。外出の際は、事前にご家族様へ連絡を行い、一人でも多くのご家族様が同伴し、ご利用者様、ご家族様、職員が楽しく行う事を目標に行ってまいりました。また、誕生日会もご利用者様の誕生日に行い、誕生者のご家族様へは積極的に参加していただけるように促しております。会社のイベントにおいてもご利用様と共に市場にて食材購入や職員の畑に野菜掘りに行ったりと室内での生活だけではなく、全員で楽しくアクティブに行事を行っています。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100937&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

. サービスの成果に関する項目(ひまわり4F アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、更に各ユニット毎に理念をかがけ談話室に掲示している。サービス提供場面では個別ケアの統一を図り常に理念を確認しながら実践に向け取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に加入しており、祭り、運動会、老人クラブ等の地域行事に積極的に参加している。事業所の祭りや行事イベントには地域住民が気楽に立ち寄るなど交流する機会を作っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域イベントには積極的に参加し、認知症の人の理解や支援方法を伝え、地域の人々が家族、親戚等でお困りの相談にのっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族代表、町内会長、副会長、財務部長、老人クラブ副会長、近隣喫茶店店主、地域包括支援センター職員等が出席し、2ヶ月に一度開催している。行事予定報告、研修計画、地域との交流、防火計画等を話し合いサービスの質の向上と事業所の円滑な運営に効果を上げている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市管理会会議、中央区管理者連絡会に参加し、積極的に交流している。社会福祉協議会、地域包括支援センター職員と連絡を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束委員会を設置し、研修を頻繁に行い、周知徹底している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を頻繁に行い周知徹底している。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明しており、質問には丁寧に答えし、理解、納得をして頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情BOXを設置しており、契約時には第三機関へ苦情申し立てが出来ることを説明し、町内会会議には利用者様と一緒に出席している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二度会議を行い運営状況、本社からの伝達事項、意見交換を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を毎年上げて向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて少しずつスタッフと共に取り組み、参加出来る研修には積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会やスタッフ研修に積極的に参加し、グループホーム同士の訪問交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用開始前には必ず施設見学を行って頂き、2～3ヶ月に一度様子をお聞きする連絡を取っている。また、入所決定後もご本人様、ご家族様と面談を行い疑問、不安の軽減を図っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人様の前では言いにくさや不安もある為、ご家族様のみでの面談もご家族様の様子をうかがい機会を設けている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人様とご家族様共に面談を行い、必要とするサービスを見極め、地域資源を含めたサービスの対応を行っている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>掃除、洗濯物干し、調理、味付け、盛り付け、配膳、下膳、買出し、ご利用者様のその日の状態に合わせ、無理せずできる範囲で一緒に行う事を常に意識して行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日々の様子をお伝えすると共に行事の際には一緒に参加して頂き、介護に対する対応へも相談の上行っている。また、遠方のご家族様へも定期的にお手紙や写真付きのお便りを送付している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所前からのご友人の来訪時には、ゆっくりと過ごして頂ける環境整備やお電話等の対応も丁寧に行い、また来ていただけるよう配慮を行っている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>その日のご利用者様の状態に柔軟に対応出来るよう職員同士の声掛けや新たな発見があれば、職員同士で共有出来るようノートの活用、会議での共有を行っている。</p>		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で家族対応になった時でも必要に応じ病院へお見舞いに行ったり、退去後も家族の相談にのっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からのご本人様との会話の中での表情や発言を記録に残し、一人で把握するのではなく、毎日の申し送りの中で発言や様子等を小まめに引き付けている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やひもときシートを用いて今までの暮らしの把握を行っている。日常会話、ご家族の話も参考にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から、その人を知る努力をスタッフ全員が行い申し送り等で把握するように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度ケアカンファレンスを行い、計画作成担当者を中心に、その間のご利用者様の様子、ご家族様の意向を踏まえ、参加者全員で検討・見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア日誌や経過記録、温度版を作成して申し送りを通して情報の共有や実践に取り組みやケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	閉鎖的な環境、マンネリ化を常に意識し、ご利用者様、ご家族様の要望、意見を取り入れ、また、新人職員からの意見も大切に柔軟支援を心がけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や老人クラブへの参加、近所の喫茶店でのお茶飲みを楽しんで頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医への受診は、ご家族様同行して頂き、職員同行も行っている。往診は、ご利用者様のご家族様とも検討し掛かり付け医のみ、または、月に一度の往診など、ご利用様・ご家族様に合わせた対応を行っている。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専任の看護職員が週1回勤務し、利用者様の健康状態を把握し、職員より相談を受け解決出来るようにしている。必要があれば受診して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時には、介護添書、看護添書を提出しグループホーム内での様子の引継ぎ、また、退院時、病院からの添書を職員で共有を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の話事前にご家族様、職員、看護師、Drと情報を共有することで事前の対応への検討を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの看護職員の指示の元マニュアルの確認を行い、判らない事は個別に指示をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練でシュミレーションを行い、地域の方々とは連絡網を設け、対策をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、敬意ある声掛けを意識するよう会議等での指導を行っている。また、配慮が足りない職員へは個人的に面談を行い指導を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	直接聞いても遠慮されてしまうため、日々の生活の中での何気ない会話の中から取り入れることを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のその日の状態や天候などを考え、業務を時間指定するのではなく、あくまでその日のうちに終われば良いという考えを持ってもらうよう指導行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食事などで服が汚れた時には、都度取替え身だしなみを整える。また、季節にあった服装やご本人様の暑がり寒がりなどを把握し配慮を行う。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の気分を考慮し、出きる限りご利用者様と共に調理を行っている。また、ご利用者様の嗜好の把握や食べやすい食形態の工夫も行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様によっては、ご家族様とも相談し、食事量や食形態の配慮を行っている。三食全て一汁三菜を目標に献立の作成を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの際、ご自分で行われる方の見守り、足りないところのサポートを行っている。また、ご利用者様に合わせ、ハミングッドの使用などの工夫も行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方への失敗への配慮を行うため、小まめな声掛けと確認を行い、尿量に合ったパットの使用、あて方の工夫を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や豆乳の提供、排便チェックを行い、必ず申し送りの際、引継ぎを行い適時対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週に2度の入浴の機会を設け、断られた際は、時間を空ける、日にちの変更を行っている。湯船への介助も職員一人では難しい方もおり、一人で無理せず、二名にて対応を行い安全にも配慮を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介助が必要な方は日中、臥床時間を設け、また、夜間の無理な臥床の声掛けは行わず、眠たくなるまで一緒に過ごし安心できる支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、当ホームのナースと職員とで、しっかり連携を取り、処方箋と薬の説明書確認をスタッフ全員が行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出きる事への支援を重視し、施設内・外への散歩の機会を増やし、刺激ある生活を送っていただいている。		

グループホーム ツクイふれあいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ご家族様協力の元、外出への機会を多く設けている。また、天気の良い日には必ず外へ散歩を行い、気分転換して頂いている。外出へは安全を考慮した、行事計画を作成し行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人にお金の管理はさせていないが買い物に行った時は財布を持って頂き、支払いをして頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は事務所にあり、希望の際は支援を行っている。手紙やFAX等はスタッフがお手伝いして書く事もある。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間へは、思い出の写真や季節の飾り付けを行い、ブラインドの調整をする事で明るさへの配慮を行っている。また、朝の掃除の際、全ての居室の窓を開け空気の入替えを行っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>その時の気持ちを尊重し、一人での時間も大切にしています。また、職員、ご利用者様が一緒に盛り上げられるような話題を行い、レクを行っています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使用していた物を持ち込み使用されています。また、足りない物は、ご本人様、ご家族様と相談の上、購入しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの追加設置、誰も座らない時の椅子の出っぱなし等をせず、障害物などを作らず、安全に過ごして頂けるように配慮を行っています。</p>		

目標達成計画

事業所名: グループホーム ツクイふれあいの家

作成日: 平成 23年 11月 16日

市町村受理日: 平成 23年 11月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画へご利用者様やご家族様の思いや意向を反映し、書式の検討も行う必要がある。	カンファレンス前にご利用者様、ご家族様の思いや意向をお聞きし、カンファレンス時に反映できる。	介護計画更新前にご利用者様、ご家族様へ事前に思いや意向をお聞きする。また、カンファレンスに参加出来ない職員に対し事前に介護計画書に目を通してもらい、見直し・評価をしてもらい、介護計画の充実化を図る。	6ヶ月
2	4	運営推進会議が報告中心の会議ではなく、有意義な討議が行われ日々のケアに役立てられる。また、参加されないご家族様へも議事録の送付を行う。	運営推進会議への案内の工夫を行い、興味を持って参加して頂ける。また、参加されないご家族へも議事録を送付し、会議への興味を持って頂く。	二ヶ月前より会議のレジメを記載した案内状をご家族様へ送付させて頂き、会議内容を事前にお知らせする。また、議事録を送付させて頂き、取り組みへのご理解と興味を持って頂く。	6ヶ月
3	1	全職員に理念を再認識して共有し、実践に繋げる。	全職員が理念を理解し、実践に繋げる。	GH全体会議にて理念の理解がしやすいように実際の支援と繋げて説明し、周知を行っていく。	6ヶ月
4	10	ご家族様の意見や要望をケアに行かせるよう、アンケートの実施やご家族様からの要望を個別に記録する工夫を行う。	ご家族様へのアンケートを実施し、個別にある要望を記録するノートを作成する。	事業所単位では、遠慮されるご家族もいる為、ツクイ全体のGHで協力し、アンケートを行える体制を作る。また、個別に要望のある方に対し、ノートを作成し記録する事でケアへの反映を図る。	1年
5	35	災害時の地域住民との役割分担の話し合いを行い、夜間を想定した避難訓練と職員の救急訓練への受講が計画的に行える。	夜間を想定した避難訓練の実施と職員の救急訓練の受講ができる。	運営推進会議を活用し、その中で実際に夜間想定での避難訓練の実施を行い、役割分担の検討も行う。また、職員の救急訓練の受講を行っていく。	1年
6	40	職員の食べ方がモデリングとなる場合もある為、ご利用者様と食卓を囲みながら同じ食事を摂ることができる。	ご利用者様と同じ食事を摂り一緒に食事することができる。	今後、社内会議にてご利用者様と食卓を囲み同じ食事を摂ることの意義を検討できる場をもうけ、実施に向け検討を行っていく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。